



平成24年4月5日

誤った使用方法によるガステーブル等の火災にご注意を！

ガステーブルや電気こんろに、誤ってポットや炊飯器などをのせて火をつけたため火災となった事案が平成22年が15件、平成23年が17件（速報値）でしたが、本年は2月末日現在で既に5件（速報値）発生していることから、東京消防庁では注意を呼びかけます。

【火災の発生状況】

住宅、共同住宅等で、ポットや炊飯器など、本来ガステーブル等で使用しないものを、誤って火にかけてしまったため出火した火災が、平成22年と平成23年の2年間で32件発生しています。

【着火物(誤って火にかけてしまったもの)の状況】

最も多いのはポットで、2年間で10件発生しています。以下、炊飯器、樹脂製容器、電気調理器具が各5件、電気調理器具専用容器4件、保温専用容器2件などとなっています。（内訳の詳細は別紙参照）

【行為者の状況】

行為者の年代をみると、65歳以上の高齢者が20人で62.5%と6割以上を占めています。以下、20歳から64歳の成人が7人(21.9%)、19歳以下の未成年が5人(15.6%)となっています。

【発生要因】

- 多くが、形状等から「このまま火にかけて使うもの」という思い込みにより発生していると推定されます。
また、電子レンジ専用調理器具などは、購入後、取扱説明書をよく確認せずに使用して火災となっています。
- 高齢者のなかには、認知症等の影響により発生したと推定されるものもあります。

【火災を防ぐために】

- 調理や湯沸かしの前に、使用する調理器具が火にかけられる物かをよく確認しましょう。特に、初めて使用する器具や新たに購入した器具は、取扱説明書をよく確認しましょう。
- 高齢者や子供が調理等を行う時は、調理器具等を安全に使用しているか、家族や周囲の方は目を配るようにしましょう。
- 設置が義務化された住警器はもちろん、万が一に備え消火器や防災品等を備えましょう。
また、高齢者世帯等には「火災安全システム」などの自動通報装置を設置し、いざという時に備えましょう。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

問合せ先

（東京消防庁（代） 電話 3212-2111
予防部調査課 内線 5065 5067
広報課報道係 内線 2345～2350）

【別紙】

1 火災発生状況

	件数	ぼや	部分焼	死者	負傷者
22年	15	13	2	-	2
23年	17	17	-	-	2
計	32	30	2	-	4

2 行為者の年代別状況

年代	高齢者	成人	未成年	計
22年	11	2	2	15
23年	9	5	3	17
計	20	7	5	32

※ 高齢者:65歳以上
成人:20歳~64歳
未成年:19歳以下

:

3 発火源の内訳

発火源	ガステーブル等	電気こんろ等	計	内訳	ガステーブル	ガスこんろ	ガスレンジ	簡易型ガスこんろ	電気クッキングヒータ	電気こんろ	電磁調理器
23年	15	2	17	10	2	2	1	2	-	-	
計	28	4	32	21	3	3	1	2	1	1	

4 着火物(誤って火にかけてしまったもの)の内訳

誤って置いたもの	ポット	炊飯器	樹脂製容器	電気調理器具	電気調理器具専用容器等	保温専用容器	その他	計	内訳	電気ポット	保温ポット	電気炊飯器	ガス炊飯器	プラスチック器	樹脂製お盆	樹脂製お椀	樹脂製皿	樹脂製水切りかご	電気ホットプレート	電気グリルパン	電気ケトル	電磁調理器	電子レンジ専用調理器具	IH専用鍋	保温鍋	保温専用容器	その他
23年	5	1	1	4	4	1	1	17	4	1	1	-	-	-	-	1	-	2	1	1	-	3	1	1	-	1	
計	10	5	5	5	4	2	1	32	7	3	4	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	1	1	1	

5 着火物別行為者の状況

年代	高齢者	成人	未成年	計
ポット	7	1	2	10
炊飯器	5	-	-	5
樹脂製容器	2	3	-	5
電気調理器具	2	1	2	5
電気調理器具専用容器等	3	1	-	4
保温専用容器	-	1	1	2
その他	1	-	-	1
計	20	7	5	32

6 行為者の状態

行為者の状態	正常	認知症	精神障害その他	病気その他	その他・不明	計
22年	7	3	1	-	4	15
23年	10	3	1	1	2	17
計	17	6	2	1	6	32

【火災事例】

事例 1 電気炊飯器をガステーブルにかけて出火した火災

出火時分 平成 22 年 6 月 9 時ごろ
出火場所 世田谷区
用途等 長屋兼共同住宅 防火造 2 階建て 延 106 m²
被害状況 建物部分焼 1 階 3 m² 天井 5 m² 焼損 負傷者 1 人
概要

この火災は、長屋兼共同住宅 1 階台所から出火したものです。

出火原因は、火元者(女性 80 歳代)が、電気炊飯器をガスこんろにかけて点火したため、本体外装の合成樹脂に着火し出火したものです。

出火建物付近で配送中の宅配便従業員が、出火室の玄関ドアの隙間から煙が出ているのを発見し、携帯電話で 119 番通報しました。また、騒ぎに気づいた付近住民が、消火器と水バケツで初期消火を行いました。

この火災で、火元者の女性が煙を吸って受傷し、消防隊に救助されました。

写真 1-1 出火室の状況



写真 1-2 焼損した電気炊飯器の状況



事例2 電子レンジ専用調理器具をガスコンロにかけて出火した火災

出火時分 平成 23 年 5 月 17 時ごろ
出火場所 北区
用途等 共同住宅 耐火造 9 階建て 延 10,076 m²
被害状況 建物ぼや 電子レンジ専用調理器具 ガスコンロ等焼損 負傷者 1 人
概要

この火災は、共同住宅 7 階台所から出火したものです。

出火原因は、火元者(女性 80 歳代)が、電子レンジ専用調理器具だとは思わずに食材、水、調理酒等を入れ、ガスコンロにかけて点火したため、調理器具本体外装の合成樹脂に着火し出火したものです。

点火後、調理器具から黒煙と炎が出てきたのを発見した火元者は、コンロの火を消した後、シンクの洗い桶に溜めていた水をコップに汲んで燃えている調理器具にかけて消火しました。

この火災で、火元者の女性が煙を吸って受傷しました。

写真 2-1 出火箇所の状況



写真 2-2 焼損した調理器具の状況



事例3 電気ポットを電気クッキングヒータにかけて出火した火災

出火時分 平成 23 年 7 月 14 時ごろ
出火場所 港区
用途等 共同住宅 耐火造 25 階建て 延 54,880 m²
被害状況 建物ぼや 電気ポット 1 焼損 死傷者なし
概要

この火災は、共同住宅の 9 階ダイニングキッチンから出火したものです。

出火原因は、出火室に勤務する家政婦の女性(40 歳代)が、お湯を沸かすため電気ポットをやかんと勘違いして水を入れ、キッチンの電気クッキングヒータにのせてスイッチを入れたため、電気ポット底部の合成樹脂部分に着火し出火したものです。

家政婦の女性がリビングで乳児をあやしていると、きな臭いにおいを感じてキッチンへ戻ると、ポットから煙が出ているのを発見し、同室の清掃に来ていた男性作業員に火災を知らせました。火災を知らされた男性作業員は、持っていたタオルを水道水で濡らし、燃えているポットに覆い被せて消火しました。

この火災による死傷者は発生していません。

写真 2-1 出火箇所の状況



写真 2-2 底部のヒータ部分が焼損した状況



【誤った使用方法による火災例】



ポット



炊飯器



電子レンジ専用調理器具



電気ケトル(底部が樹脂製)



樹脂製お盆

